

# 自治体学会 学術問題検討委員会

第3回

2021. 07. 04 (日)

14:00 ~ 16:30

On zoom

[課題共有型円卓会議] 今だから語り「自治の理想と現実」

① 話題提供：田中一雄さん (元群馬県庁)

学会設立当初からのメンバー

学研会議問題

菅総理任命拒否 理由不明

社会科学・人文科学・自然科学 軽視

取組・役員への

1970年代 取組自治研

1984年 政策交流会

取組を離れ2も集まる幅広  
人たらず集まる場の設立と説いて  
回る

1986年 自治体学会 設立総会

幅広い分野で集まる 1243名(設立時全員数)

取組の資質向上 → 団体会員も 自治の問題

2014年 自治体学会設立の経緯 (HP掲載) 遠い  
「会員一人ひとりの意見をまとめるのは難しい」

1990年ごろ 全員 2000名程 (ピーク?)

全員 取組、大学研究者、市民、NPO

国政の世代交代で  
取組の敬いも 50万人くらい減った > 会員減  
市民の関心 ↓  
(新たな傾向：議員入)

横ばい

自治体取組から研究者になる人も

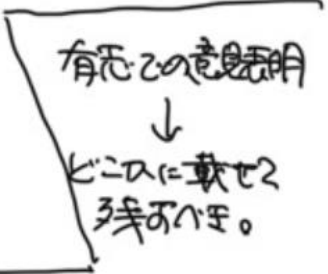
自治体取組の高学歴化

学会への参加 低調 (名簿に出さないで欲しい)

社会に対して反響が弱く、首長とつながり

学研会議問題 — 自治の直接の問題ではない

「関わりたくない!」 学会に関わりたくない研究者



② スポ-カ- (1)

田中 逸郎さん (元 豊中市役所)

このあたりから、  
情報公開 流行った ) 今も位請  
参照. 自治基本条例 "

自治体 (取組) 自派の連鎖

コジニテキ 政策学会 (副市長 (任期後))

自治体の自主 → 中央集権 台まてい  
金が降りてこない

法律に基づかないこととしたためからの  
理由を求めるのは当然

残念  
自治分権  
地球の  
多様性を守り返す  
こと

大学も同じ. 国をこぼすことで手いっぱい  
あてが. 付度

6国体で申し入れした

法的正当性の検討。学会活動  
× 政治家活動

↓  
住民に対する説明責任

↓  
学術会も問題 傍観. 茶室の連鎖  
危機感

慎重論 不利益生じるかも

出ない抗は腐り  
原案が大きい!

↓  
説明責任 (対外的に)

深刻な状況 加えて見えた

議論して策定 (丸のみではなく 全面拒否  
でもなく)

意見交換

国の補助削減で決まる

「ヤレタリ損」の現状 交付税交付金 財源の問題は、一番大きい

生産的な議論に足踏み

ネットワーク組織に力を入れる 総論省役人に丸めこめる

説明責任を. (住民地域に対する責任)

スピーカー (2)

荒木和美さん (寝屋川市役所)

教育委員会 管理部門  
とんぼ保 (就学前教育)

コロナ禍での学びの保障

学術会キ問題

自治体学会のML 意見交換はうまく  
静観視していた

自治体取組から学術会議に反対の認識  
薄かった。影響がわからなかった。

「看過できない」より

「関わりなしによる政治的中立」と先行  
慎重にするべきという意見も

2030年代から  
示唆も受ける

荒川さん時代とは  
やり方も違う

検討学会の事務局  
と関係が深かった。

シナリオ作成は  
深く考えようという  
話があった。

為構えを  
聞いて考えた

時間から  
場を深  
く知った

とはいえあつとモロモロしていた。

なぜ「何かを語り出す」という選択をしたのか?

自分自身の行脚に結びつかない

中央集権化

地域創生・コロナ禍で

対金とどうとつてくるか 生々しい。

自治. 持ち出し

現実対応として市民へのリットととると  
この対応せざるを得ない

難しの中を職員はしたたかに。

市民のたのしみも感じたいという実情

ネットワーク組織

一連のギロニの中での多様性を実感。

多様性をどう生かすか



スロ-11-3)

矢島真知子さん (元 横須賀市議)

平成3年 ~ 28年間 議員 (2年前に任期満了)

地方分権 奪い取り不安

自治体学会

群馬高(崎)大会以来の会員

20年前と今の雰囲気の違い

入会時

交流会で田村明先生に「学会で勉強」  
編集委員会 監事など

学会会費 任命拒否問題に聞いたとき

“大変なこと” 政治のあり方、  
社会の閉塞感

目指していた 自立した自治体。地域が  
脅かされると感じた。

この議論  
いろいろ話を聞かされた。  
HPにリンク貼るのはちやとちや  
と思うな...  
有心

自由な取組  
熱心な取組

楽しかった  
お酒を飲み  
ながら意見交換

↑  
今の大人の子供のことは?

地方分権 一括法撤廃  
希望はなし  
満ちた  
以外の国への押し戻し

外はこういう団体だと見える

何かに怒った人を守り  
→ 議員さんで話したら 学会の  
ところを見せ

メディア 最終的には国民の脅かしをことごとく  
報じてほしかった

自分ごとじゃない。

拒否された“委員”にその拒否理由の開示も  
報じたい

声明を上げられなかったことは残念

多様な意見と認めざるを得ない。学会というなら有言を  
声明を出したことは見守るうにしたい

○自治を守り、○自由を發揮し欲しい。  
欲しい。○自治が侵食  
されること  
理由も説明もなく 除外 感じ欲しい

憲法、法を順守しては議員としての  
役割 果たさない!!  
もどかしは理解するけれど... (4)

今井 照さん (財)地方自治総合研究所

- ① 自治体学会のあり方
- ② 学会会費問題
- ③ " " に対する学会の対応

① 自治体学会 発起人の時代  
 設立から10年程経て、実質的関わり  
 (若く世代)  
 「ネットワーク組織」と強調されていた。  
 ↳ 場をもつて交流ある  
 経験と総括する。

実務と理論化の学問

ネットワークは学会以外にも色々できている。

こういう場を持つこと自体、何らかのネットワークには  
 ありえない、

「うまかっさい」=「したたか」  
 「たてもいっけ」

学会の現状: 親親的

有て声明の扱い

リスリは考えられなく  
 何らかの基準は作らない - 念を

② 学会会費 " そのものには否定的"  
 行政のようになった組織 ~ 協会会 ~ 審議会と  
 同じ。  
 公募市民に作文を書いたもの、ある

合併の年  
 今は抱え切れない  
 自治  
 各自治体は  
 国の道徳の中

相対合併、広域化  
 自治体の  
 もつた時代  
 50年代  
 変わった

③ 学会会費との関わり  
 提言する際は、40程  
 作業舞台に携わった

自治体行政  
 中心

世代の世代  
 次々かわる

自治体の仕事を  
 どう理論化するのか。

「出は流は打たれる  
 と可なりは打たれる」

生活人として生きていく

自分の思いを遂げたい

自治体行政 含めたあり方  
 自分に抱き返さる。

なぜ報告書を出さない?

相手方(国)が受け入れ前提  
 OKにいかないとダメ。そこを  
 満たす。

体験的

政府中心の中でのどううまかっさい  
 国との関係

「権威の場」  
 集権的

自治分権

コト、地方創生

某大企業量

協会の場も

自治のことという人も「標準化」に肯定

標準化 VS 自治

論点整理

田中-雄仁

ネットワーク組織 設立当時  
 水平の組織  
 対応性のある組織  
 減: 1と1でいい 1000人以上の会員  
 対面大会をしない。メンバーが大人しいとか、  
 113、113あたり意見交換の場からでる。

その職責は 株式会社ではよく知らない  
 議論に 解決策見出せる いう点では意義あり

今の取組 従来は多様なメンバーが  
 揃っているのは 亦々目的の人が 年々減ってきて  
 逃げていう ネットワーク組織。

上下組織にはないから難しい。

HP 113人か会員か、113のEと113とある

大会で報告してほしいと思う。